

第4回 UNI APRO 地域大会

韓国の民主主義の危機に関する声明

韓国労働運動の民主主義と労働者の権利を求める闘いは国際的なサポートを得る

第4回 UNI Apro 地域大会（12月6～8日、マレーシア・クアラルンプール）は、韓国の民主主義が後退傾向にあることに深い懸念を表明する。現政権は反労働組合的改革を推進しており、民主的な労働組合活動を激しく抑圧している。

2014年末、韓国政府は財閥を優遇するような労働市場の再編を表明した。例えば、賃金ピーク制（Wage Peak System）が法制化・実施されれば、より多くの派遣労働者を雇用するためだけに、上級労働者の賃金が大幅に削減されるだろう。つまり、派遣労働者を雇用するために彼らが会社に対し忠実に尽くしてきた年数が犠牲にされるのだ。人々は制度を「息子がファーストフード店でアルバイトをするために、父親のサラリーを大幅に削減する」ものだと揶揄している。さらに政府は、企業の海外競合他社に対する競争力を向上する名目で雇用に関する規制緩和を推進しており、その実その内容は職場の労働者にとってほぼすべてのセーフティネットを剥奪していると言ってもよい。加えて、この改変が実施されれば、非典型労働者の運命は「心の広い使用者」のさじ加減に委ねられる形となり、これは非典型労働者の最低労働条件及び正規ポジションへの道筋を定める現行の労働法に違反する。

民主的な労働運動の希望は今深刻な課題に直面している。政府は景気減退の対抗策として反労働組合的改革を課すことによって、さらに社会の安全のための策として労働組合活動を抑圧しており、経済危機の責任をすべて労働者が肩代わりさせられている状況である。特に11月14日にソウル市で決行した国民のデモに対する政府の対応は明らかに韓国の民主主義の危機を表している。警官隊はデモ隊の行進を阻止するため彼らを護送車で囲い込み、農家、労働者、社会活動家などによって構成される13万人あまりのデモ隊に向けて劇薬が混ぜられた水を放水車から高圧で打ちつけた。また、デモの最前を行進していたある68歳の農家の男性が立て続けに放水を浴びた結果、昏睡状態に陥ったことに驚愕している。彼は脳に手術を施されたが、未だ意識は戻っていない。また、韓国加盟組織によるとハン・サンキュン KCTU 委員長は未

だ警察の指名手配リストに載っており、韓国の公務員組合及び教職員組合の合法性は依然として拒否されている。

ILO、OECD、欧州韓国 FTA などの労働問題に関する国際的なコミットメントを韓国政府が順守していないことに鑑み、OECD TUAC（労働組合諮問委員会）は昨年韓国へ国際ミッションを派遣した。また、最近ではフィリップ・ジェニングス書記長が朴槿恵大統領へ警官隊による暴力と反労働組合的改革をただちにやめるよう書簡にて要求した。

現状を鑑み、我々は韓国政府へ以下を要求する。

- 拘束中の全労働者を直ちに解放し組合抑圧をやめること。
- 相互尊重に基づいた社会対話を直ちに開き、労働者と農家の声に耳を傾けること。
- ジャーナリストへの抑圧を直ちに中止し、表現の自由を保障すること。
- 民主的運動を阻害する政策を直ちに中止すること。

我々は韓国労働組合運動を国際連帯で支援し、勝利と正義がもたらされるまで韓国労働組合運動を支え続ける。

指名手配中のハン・サンキュン KCTU 委員長はソウル市の曹溪寺（そうけいじ/Chongyesa Temple）へ駆け込み、寺院関係者に警察からの保護を要請し、11月16日より寺の保護を受けている。